

# 「限界」化する山村における 地域生活と住民意識（4・完）

—静岡県旧磐田郡佐久間町における調査を通じて—

丸山真央・石田光規・上野淳子

人間文化学部人間関係学科／早稲田大学文学学術院／桃山学院大学社会学部

## 12. 住みつづけられる地域社会をめざして

### —まとめて代えて

これまで3回にわたって報告してきたわれわれの調査は、実査をおこなってから、早くも4年が経過した。この間に中山間地域や人口減少をとりまく政治・政策や言論状況は、だいぶ変わったように思われる。代表的な近年の動きとして、民間シンクタンク「日本創成会議」のいわゆる「増田レポート」の発表(増田編 2014)、国土交通省の「国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～」の公表(2014年7月)、そして第二次安倍政権の「地方創生」政策の展開が挙げられる。これらをひとつずつ検討する紙幅も能力もないが、「増田レポート」にかんしては、われわれの調査や報告に関連して一言しておきたい。

同レポートは、全国の市町村について2040年の人口推計をおこない、2割以上の373市町村で、20～30代の若年女性人口が5割以上減少すると指摘したうえで、人口再生産が不可能になり「消滅可能性」があると警告して話題になった。この分析の適否については、すでに入念な検討がなされているし(小田切 2014a；坂本 2014；岡田 2014a)、包括的な検討も提出されはじめているので(山下 2014；小田切 2014b；岡田 2014b)、詳しい検討は別に譲りたい。

同レポートはそのうえで、人口再生産が不可能になる中山間地域の多くで、いくつかの対応策が必要になると提起している。たとえば、東京一極集中を防ぐために、地方都市や中核となる集落で、人口流出を堰きとめる「ダム」を造ること、そうした「ダム」において拠点施設の集約を進め、各地に「コンパクトシティ」を建設すること、などである(増田編 2014：第2～3章)。

こうした提言にたいしても、すでにいくつかの批判が出されている。たとえば、若者の「田園回帰」を重視する立場から人口減少を急性に煽りたてることへの批判や、「選択と集中」をさらに進める政策の新自由主義的な性格の指摘などが目につくものである(上述の諸論考を参照)。

それらに加えて、ここで重要と思われるのが、こうした提言が、「地方消滅」に瀕する当該地域の住民

の思いや要求を適切に反映したものなのかということではないだろうか。この点について、これまで報告してきたわれわれの調査の知見をふりかえりながら考えてみたい(以下、かっこ内は本連載の節番号)。

われわれが調査をおこなった佐久間町は、2005年に浜松市に編入合併されたため、日本創成会議の人口推計では浜松市に含まれており、「消滅可能性」のある地域と名指されたわけではない。とはいえ、高齢化率が50%を超えて人口減少が急速度で進んでおり、「消滅可能性」自治体にひけをとる水準ではない(2・3節)。

そこでの調査を通じて明らかになった住民の思いや要求とは、次のようにまとめられよう。まず、住民の多くは、地域の将来、自らの生活の将来に強い不安をもっており、「地方消滅」の指摘を俟つまでもなく、当該住民に現状認識は一定程度共有されている。とりわけ、「集落の将来」への不安が大きいことは特筆すべきことである。この不安は、現在の集落自治の実際の担い手である60代～70代前半に最も強い(9節)。

その一方で、住民の多くが、今住んでいるところに強い愛着を抱いていることも明らかになった(8節)。「集落の将来」への不安とは、今のところに住みつづけたいという思いの裏返しである。便利な都市部に移住したいという思いは、若年層の一部にはあるものの、高齢層にはほとんどみられない(10節)。住民の多く、とくに高齢者は、これまで培ってきた近隣関係や友人関係など、さまざまな社会的ネットワーク資源を保有しており、それが日常生活の維持を支えている側面もある(6節)。今のところに住みつづけることを強く希望していると同時に、集落を集団移転させることにたいして肯定的な意見はほとんど聞かれなかった(11節)。

こうした調査結果を踏まえれば、高齢化と人口減少が進行する中山間地域に必要なことが、「拠点集中」や「集落再編」といった提言とは小さくない懸隔があるといわざるをえない。人口減少地域の現状が知られ、危機感が共有されるのは重要なことである。しかし、それにたいする処方箋として、「選択と集中」型の新自由主義的な再編構想が提起される

ことについては、その内容が支持できないばかりか、当該住民の意思にも反するといわざるをえない。むしろ問われるべきは、「住みつづけたい」という高齢住民の思いをかなえるために、今あるものも含めて、制度や資源をどう利活用するか、再編成するかということではないのだろうか。

このように、調査開始時には十分に見えていなかった課題が見えてきたわけで、「「限界」化する山間地域の地域生活」という課題を前にして、われわれがさらになすべきことは山積している。本調査と分析はその第一歩となるものである。

(執筆分担：12＝丸山・石田・上野)

## 文献

愛知大学総合郷土研究所編, 1998, 『県境を越えた地域づくり——「三遠南信地域」づくりを中心に』岩田書院。

林直樹・齋藤晋編, 2010, 『撤退の農村計画——過疎地域からはじまる戦略的再編』学芸出版社。

石田光規, 2011, 『孤立の社会学——無縁社会の処方箋』勁草書房。

岩間信之編, 2011, 『フードデザート問題——無縁社会が生む「食の砂漠」』農林統計協会。

町村敬志, 2006, 「ポスト・ダム開発の半世紀——地域社会に刻まれる佐久間ダム建設のインパクト」町村敬志編『開発の時間 開発の空間——佐久間ダムと地域社会の半世紀』東京大学出版会, 171-94。

町村敬志編, 2006, 『開発の時間 開発の空間——佐久間ダムと地域社会の半世紀』東京大学出版会。

丸山真央, 2006, 「「平成の大合併」と地域社会の論理——佐久間町の浜松市広域編入合併をめぐる」町村敬志編『開発の時間 開発の空間——佐久間ダムと地域社会の半世紀』、東京大学出版会, 359-81。

丸山真央, 2010, 「「平成の大合併」における「編入される側」の住民意識の構造——静岡県旧佐久間町民意調査の分析を通じて」『東海社会学会年報』2: 60-73。

丸山真央, 2011, 「ポスト「平成の大合併」のローカルガバナンスと住民生活——静岡県浜松市旧佐久間町民意調査の分析を通じて」『人間文化(滋賀県立大学人間文化学部研究報告)』28:

2-18。

丸山真央, 2012, 「国家のリスキングと都市のガバナンス——「平成の大合併」の地方政治を例に」『社会学評論』62(4): 476-88。

増田寛也編, 2014, 『地方消滅——東京一極集中が招く人口急減』中央公論新社。

中尾啓子, 2002, 「パーソナルネットワークの概要と特性——東京都居住者対象のネットワーク調査から」森岡清志編著, 『パーソナルネットワークの構造と変容』東京都立大学出版会, 17-39。

NHK 地域開発プロジェクト・東三河地域研究センター, 1989, 『県境を越えた開発——「三遠南信トライアングル構想」から』日本放送協会出版。

小田切徳美, 2014a, 「「農村たたみ」に抗する田園回帰——「増田レポート」批判」『世界』860: 188-200。

小田切徳美, 2014b, 『農山村は消滅しない』岩波書店。

岡田知弘, 2014a, 「さらなる「選択と集中」は地方都市の衰退を加速させる——増田レポート「地方拠点都市」論批判」『世界』861: 64-73。

岡田知弘, 2014b, 『「自治体消滅」論を超えて』自治体研究社。

大野晃, 2005, 『山村環境社会学序説——現代山村の限界集落化と流域共同管理』農文協。

坂本誠, 2014, 「「人口減少社会」の罨」『世界』860: 201-8。

佐久間町総務課編, 2003, 『町勢要覧 統計資料編 平成15年度』。

信濃毎日新聞社編集局編, 2011, 『三遠南信——東三河・遠州・南信濃 山と海つなぐ人々』信濃毎日新聞社。

静岡県磐田郡佐久間町, 1996, 『第7次佐久間町総合計画』。

戸田敏行, 2010, 「県域を越えた地域の結びつき」大西隆編『広域計画と地域の持続可能性』学芸出版社, 120-30。

徳野貞雄, 1998, 「農山村における「花嫁不足」問題」山本努・徳野貞雄・加来和典・高野和良『現代農山村の社会分析』学文社, 171-191。

斎藤吉雄編, 1979, 『コミュニティ再編成の研究——村落移転の実証分析』御茶の水書房。

山下祐介, 2014, 『地方消滅の罨——「増田レポート」と人口減少社会の正体』筑摩書房。

謝辞

調査にご回答いただいた佐久間町の住民の皆さまに厚くお礼を申しあげたい。この調査は滋賀県立大学人間文化学部研究費(科研費間接経費)、日本学術振興会科学研究費補助金を使用しておこなわれた。調査に際しては町村敬志先生にお世話になった。記して感謝を申しあげたい。

- 1 自治会の役員(74.4%)
- 2 民生委員(52.8%)
- 3 市の課長以上の役職者(13.2%)
- 4 市議会の議員(26.9%)
- 5 佐久間地域協議会の委員(20.7%)
- 6 天竜区の地域協議会の委員(4.7%)
- 7 県議会の議員(4.7%)
- 8 国会議員(4.7%)

付録1 佐久間町の地域づくりと暮らしに関する調査 調査票(単純集計表付き)

【まず、あなたのくらしや地域について、おうかがいします】

問1 あなたはふだん近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。ひとつ○をつけて下さい。

- 1 つきあいはない(1.6%)
  - 2 あいさつする程度の人がある(9.6%)
  - 3 立ち話をする程度の人がある(36.8%)
  - 4 お互いに訪問しあう人がある(50.0%)
- NADK(2.1%)

問2 あなたが、つぎのようなおつきあいをする方は、何人くらいでしょうか。また、その方のお住まいまで、どのくらいの時間がかかりますか。ふだん使っている交通手段で実際にかかる時間ごとに、あてはまる人数を数字でお答えください。(※表中の人数は平均人数)

	同居・敷地内	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間以上
病気のときの身のまわりの世話を頼む	1.4人	1.4人	0.6人	0.8人	0.5人
買い物など日常の用事を頼む	1.2人	0.9人	0.3人	0.5人	0.3人
個人的な悩みごとの相談	1.0人	1.0人	0.3人	0.5人	0.3人
気晴らしにいっしょに出かける、おしゃべりする	1.2人	2.3人	0.6人	0.5人	0.3人

問3 あなたには、つぎのお知りあい(話をするところがあるくらい、よく知っている人)がいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(※カッコ内は「いる」と答えた割合)

問4 あなたは、つぎのことを、おもにどこでなさっていますか。それぞれ、あてはまる番号を選んで、数字でお答えください。

	佐久間・山香・城西	自分の地区(浦川・)	佐久間町内	天竜区内	浜松市内	東三河地域	愛知・静岡県	東京・神奈川	移動販売・通信販売	その他	NADK
日用雑貨・食料品の購入	42.0	13.2	9.6	17.1	7.0	6.2	0	0.3	0.3	4.4	
電化製品・家具の購入	16.6	16.1	2.1	28.5	16.3	12.2	0	0.8	0.3	7.3	
病院・診療所の利用	36.3	31.9	4.1	8.0	6.0	9.3	0.3	0	0	4.1	

問5 あなたは、つぎの移動手段を、どのくらいつかいますか。それぞれ、あてはまる番号に、ひとつずつ○をおつけください。(※表中の数字は%)

	週に1度以上	月に1度以上	半年に1度以上	それ以下・つかわない	NADK
自家用車・バイク	69.2	11.1	1.6	16.1	2.1
医療バス・福祉バス	2.3	12.7	3.6	79.5	1.8
NPOタクシー	1.8	6.5	3.9	85.8	2.1
路線バス	0.8	1.8	6.2	89.1	2.1
JR 飯田線	3.6	12.2	28.8	53.9	1.6

問6 あなたは、つぎの団体や活動に参加していますか。それぞれ、あてはまる番号に、ひとつずつ○をおつけください。(※表中の数字は%)

	参加している	まえば参加していた	参加したことはない	NADK
自治区(自治会)・消防団	41.2	20.5	35.8	2.6
青年クラブ・婦人会・老人会・PTA・子ども会	28.8	36.0	32.9	2.3
産業団体(商工会・観光協会・森林組合・農協など)	23.8	12.4	60.4	3.4
文化・趣味・スポーツなどの団体・サークル	27.2	22.3	48.7	1.8
福祉のグループ活動(食事会など)	15.5	9.6	72.8	2.1
地域活性化のグループ・団体	17.4	13.2	67.4	2.1
政治家の後援会・政党	13.2	10.9	73.8	2.1
社会福祉協議会	21.5	9.8	66.3	2.3
特定非営利法人NPOがなばらまいか佐久間(世帯でどなたかが会員なら「参加」とします)	63.0	3.4	31.9	1.8

問7 暮らしのなかで、不安におもっていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください(いくつでも)。また、そのなかで一番不安な項目の番号も記してください。(※表中の数字は%)

	不安あり	一番の不安
身のまわりの世話をしてくれる人の確保	35.8	15.5
安定した仕事・収入の確保	37.0	18.7
集落の将来	53.6	18.9
交通手段の確保	29.3	4.7
家のあとつぎ	30.3	7.3
救急時の医療体制	34.2	10.6
祖父母や両親の介護	21.0	6.0
子や孫の教育	13.7	2.1
山や川など自然環境の破壊	26.7	2.1
その他	3.4	1.8
なし	--	3.1
NADK	--	9.3

問8 この5年間に、いま住んでいるところから離れてくらしとおもったことはありますか。

- 1 ない(62.4%) 2 ある(31.3%) → SQ1 ~ 3へ

SQ1 なぜそう思いましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 仕事がない(37.5%)
- 2 福祉や病院が不安(24.1%)
- 3 家族や親戚と同居する(10.7%)
- 4 生活が不便(54.5%)

- 5 家族以外(友人等)と交流したい(12.5%)
- 6 自分や家族の進学(6.2%)
- 7 より多くのチャンスをつかみたい(16.1%)
- 8 その他(8.9%)

SQ2 それはどこですか。あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。

- 1 自分の住む地区(浦川・佐久間・山香・城西)の中(11.6%)
- 2 佐久間町内(13.4%)
- 3 天竜区内(3.6%)
- 4 浜松市内(35.7%)
- 5 愛知・静岡県(20.5%)
- 6 東京・神奈川(3.6%)
- 7 具体的なところはない(8.0%)
- 8 その他(3.6%)

SQ3 離れなかったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 お金がかかるから(36.6%)
- 2 仕事なくなるから(18.8%)
- 3 子や親戚と住むと気兼ねしそうだから(7.1%)
- 4 さみしそうだから(1.8%)
- 5 身近に親しい友人がいるから(12.5%)
- 6 今のところが好きだから(27.7%)
- 7 家を守るため(37.5%)
- 8 受け入れ先がない(8.0%)
- 9 その他(14.3%)

問9 あなたはつぎの地域に、どれだけ愛着を感じていますか。それぞれ、あてはまる番号に、ひとつづつ○をおつけください。(※表中の数字は%)

	感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない	NADK
あなたのお住まいの集落	61.1	21.5	6.2	8.3	2.8
あなたのお住まいの地区(浦川、佐久間、山香、城西)	52.8	25.9	8.5	9.6	3.1
佐久間町	44.6	27.7	11.1	13.7	2.8
天竜区	10.4	29.3	25.4	31.9	3.1
浜松市	8.3	30.1	24.9	33.7	3.1
三遠南信地方	6.0	22.3	26.9	41.7	3.1
静岡県	17.4	29.8	21.2	28.5	3.1

問10 佐久間ダムにかんするつぎの見方や意見について、どのようにおもいますか。それぞれ、あてはまる番号に、ひとつずつ○をおつください。(※表中の数字は%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえ	そう思わない	NADK
ダム建設は、町に大きな利益をもたらした	41.5	31.1	12.4	7.8	7.3
ダム建設によって、川が死んでしまった	31.3	27.2	19.9	12.7	8.8
ダムが建設されたことは、全体としてみた場合、地元にとってよかった	24.4	41.5	15.5	10.1	8.5
ダムは、合併後も佐久間町のシンボル(象徴)である	38.1	31.6	12.4	10.4	7.5
将来的には、いつか、ダムはなくなるのが望ましい	11.1	15.5	30.1	32.6	10.6
ダムの将来は、地元住民が決めるべきだ	31.6	28.2	14.0	17.4	8.8

【2005年7月に行われた浜松市との市町村合併について、おうかがいします】

問11 あなたは、合併に賛成でしたか、反対でしたか。ひとつ○をつけてください。

- 1 賛成 (11.4%)
  - 2 どちらかといえば賛成 (32.9%)
  - 3 どちらかといえば反対 (37.6%)
  - 4 反対 (15.3%)
- NADK (2.8%)

問12 あなたのお考えは、つぎのどれに近いですか。ひとつ○をつけてください。

- 1 浜松市と合併してよかった (8.8%)
  - 2 浜松市との合併はしかたがなかった (49.0%)
  - 3 北遠5市町村で合併すべきだった (13.0%)
  - 4 水窪町と2町で合併すべきだった (8.8%)
  - 5 合併せずに単独でいればよかった (13.7%)
  - 6 その他 (2.8%)
- NADK (3.9%)

問13 合併してから、行政のしごとはどう変わりましたか。それぞれについて、ひとつずつ○をつけてください。(※表中の数字は%)

	よくなった	変わらない	悪くなった	わからない	NADK
住民票・戸籍などの窓口サービス	8.8	63.0	10.9	16.1	1.3
税金	2.1	28.8	38.3	29.3	1.6
生活道路の整備	9.3	51.8	21.5	15.8	1.6
上水道の整備	19.7	52.3	9.3	16.6	2.1
ごみの収集・処理	20.2	61.4	8.0	9.3	1.0
下水道の整備・し尿処理	22.3	54.7	4.9	17.1	1.0
病院	19.2	60.4	5.2	14.2	1.0
介護サービス	15.8	42.2	3.9	36.0	2.1
福祉サービス	13.7	42.5	6.2	36.0	2.1
小中学校	2.6	26.2	30.8	38.6	1.8
地域自治センター(元の町役場)	4.1	39.6	31.1	23.6	1.6
集会所・コミュニティセンター	3.6	48.4	17.9	28.5	1.6
自治区への支援	1.3	20.2	50.5	26.9	1.0
広聴・住民参加	1.8	33.7	22.8	40.4	1.3

【行政や政治について、おうかがいします】

問14 あなたは、つぎの機関の活動について、どれだけ関心がありますか。また満足していますか。それぞれひとつずつ○をおつけください。(※表中の数字は%)

	関心				満足			
	関心がある	えな	どちらともい	NADK	満足している	えな	どちらともい	NADK
佐久間地域自治センター	36.5	44.0	14.2	5.2	8.5	66.8	10.9	13.7
佐久間地域協議会	24.9	43.5	23.6	8.0	3.4	69.4	10.4	16.8
天竜区役所	9.3	43.8	34.7	12.2	1.6	67.9	11.9	18.7
天竜区地域協議会	7.5	41.7	39.4	11.4	0.5	69.4	9.8	20.2
浜松市役所	12.2	42.2	34.5	11.1	0.8	63.2	17.4	18.7
浜松市議会	17.9	39.6	31.3	11.1	0.8	63.7	16.6	18.9
静岡県庁	7.8	40.7	40.4	11.1	0.5	71.8	9.6	18.1
静岡県議会	9.3	40.4	39.6	10.6	0.5	69.4	11.4	18.7

問15 あなたは、2年前の浜松市長選挙(2007年4月8日)で、どの候補に投票しましたか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。

- 1 鈴木康友 (25.6%)
- 2 北脇康之 (55.7%)
- 3 高林順 (0.3%)
- 4 棄権した (1.8%)
- 5 選挙権がなかった・浜松市内に住んでいなかった (3.1%)



問20 いま結婚していますか。あてはまる番号にひとつだけ○をおつけください。

- 1 未婚(10.9%)
  - 2 既婚(事実婚も含む)(68.9%)
  - 3 結婚したが死別(14.2%)
  - 4 結婚したが離別(2.8%)
- NADK(3.1%)

問21 あなたがさいごに卒業した学校(在学中を含む)はどちらですか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。(旧制の場合は「その他」に具体的にお書きください)

- 1 中学校(42.2%)
  - 2 高校(35.8%)
  - 3 短大・高専、専門学校(11.7%)
  - 4 大学・大学院(6.5%)
  - 5 その他(0.8%)
- NADK(3.1%)

問22 あなたは、どの自治区(集落)にお住まいですか。あてはまる番号にひとつだけ○をおつけください。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1 吉沢(1.0%)   | 2 川上(2.1%)    |
| 3 出馬(2.8%)   | 4 沢上(2.3%)    |
| 5 上市場(3.9%)  | 6 町(9.1%)     |
| 7 柏古瀬(4.7%)  | 8 小田敷(0.5%)   |
| 9 島中(2.1%)   | 10 河内(0.3%)   |
| 11 地八(0.3%)  | 12 和山間(0)     |
| 13 早瀬(3.4%)  | 14 神妻(1.6%)   |
| 15 川合(3.1%)  | 16 佐久間(9.6%)  |
| 17 中部(11.9%) | 18 半場(7.0%)   |
| 19 下平(1.0%)  | 20 峯(0.8%)    |
| 21 羽ヶ庄(0.8%) | 22 大滝(1.3%)   |
| 23 大輪(0.8%)  | 24 仙戸(0.3%)   |
| 25 福沢(1.3%)  | 26 和泉鮎釣(1.0%) |
| 27 間庄(0.3%)  | 28 瀬戸(0.5%)   |
| 29 西渡(4.1%)  | 30 舟戸(1.3%)   |
| 31 戸口(0.5%)  | 32 上平山(1.0%)  |
| 33 芋掘(2.8%)  | 34 松島(2.8%)   |
| 35 野田(3.1%)  | 36 横吹(1.8%)   |
| 37 相月(6.5%)  | 38 その他(0)     |
- NADK(2.3%)

問23 あなたは、どちらでお生まれになりましたか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。また、転居のあり・なしについても、おしえてください。

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 今と同じ(31.9%)        | 2 佐久間町内(30.3%) |
| 3 北遠地域(今の天竜区内)(9.1%) |                |
| 4 遠州地域(今の浜松市内)(2.3%) |                |
| 5 東三河地域(6.0%)        |                |
| 6 愛知・静岡県(6.2%)       |                |
| 7 東京・神奈川(1.3%)       |                |
| 8 その他(6.2%)          | NADK(6.7%)     |

SQ1 では、そのあとは、つぎのどれにあたりますか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。

- 1 町外に住んだことがない(44.4%)
- 2 いったん町外に住み、29歳までに佐久間町に戻った(43.5%)
- 3 いったん町外に住み、30歳以降に町に戻った(12.1%)

SQ2 では、佐久間町内に住むようになったのは、いつですか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。

- 1 29歳までに(69.2%)
- 2 30歳から49歳までのあいだに(22.5%)
- 3 50歳よりあとに(8.3%)

問24 では、あなたは、佐久間町内にどれぐらいお住まいですか。数字でお答えください。また、町内で引っ越したことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- 通算 平均50.0年  
佐久間町内で引っ越したことが
- 1 ない(71.2%)
  - 2 ある(25.1%)
- NADK(3.6%)

問25 あなたとご家族のお仕事について、それぞれひとつずつ数字でお答えください。(※単純集計は省略)

- ①あなたのお仕事
- ②あなたが最も長くつたお仕事
- ③配偶者の方が最も長くつたお仕事
- ④あなたのお父さまのお仕事

⑤配偶者の方のお父さまのおもなお仕事

その他(1.0%)

(A) お仕事は？(複数あるときは収入の最も多いもの)

- 1 無職(学生を含む)    2 家事
- 3 会社経営・役員
- 4 常雇・フルタイムの雇用者
- 5 非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・内職などの雇用者
- 6 自営業・自由業・家族従業員

(B) お仕事の種類は？

- 1 専門職(教員、医師、看護師、技術者など)
- 2 管理職(会社役員、課長以上の管理職、議員など)
- 3 事務職(総務・企画・経理事務、コンピューターのオペレーターなど)
- 4 販売職(小売店、外交員など)
- 5 生産工程・労務、保安職(工場・土木作業、運転手、警察官など)
- 6 サービス職(料理人、旅館、理容師、ウエイトレスなど)
- 7 農林漁業(農業、山林労働、漁業、造園など)

(C) お仕事先の規模は？(支所・支店だけでなく)

- 1 1～4人    2 5～29人
- 3 30～99人    4 100～299人
- 5 300～999人    6 1,000人以上
- 7 官公庁(独立行政法人、各種団体を含む)

(D) お仕事先の場所は？

- 1 自宅    2 佐久間町内
- 3 天竜区内    4 浜松市内    5 東三河地域
- 6 愛知・静岡県    7 東京・神奈川
- 8 その他

問26 つぎのなかから、同居しているご家族をすべて選んで、番号に○をつけてください。(※数字は「いる」と答えた%)

- 配偶者(61.1%) 未婚の子(17.1%)  
結婚している子(7.0%) 子どもの配偶者(8.8%)  
孫(5.4%) あなたの親(14.0%)  
配偶者の親(7.8%) 祖父母(4.9%)  
あなたまたは配偶者の兄弟姉妹(2.3%)

問27 お子さんはいますか。いる場合は、お子さんの性別、年齢、お仕事、お住まいを、それぞれ数字でご記入ください。

- 1 いる(79.3%) (平均2.3)人
- 2 いない(15.0%)  
NADK(5.7%)

SQ1 お子さんの性別(数字に○)(※単純集計は省略)

- 1 男    2 女

SQ2 お子さんの年齢(※単純集計は省略)

SQ3 お子さんのお仕事(※単純集計は省略)

- 1 無職(学生を含む)・家事
- 2 自営業    3 専門職    4 管理職
- 5 事務職    6 販売職
- 7 生産工程・労務、保安職
- 8 サービス職    9 農林漁業

SQ4 お子さんのお住まい(数字で)(※単純集計は省略)

- 1 同居・敷地内    2 佐久間町内
- 3 天竜区内    4 浜松市内    5 東三河地域
- 6 愛知・静岡県    7 東京・神奈川
- 8 その他

問28 お宅は、いつから佐久間町内に家をかまえていますか。あてはまる番号にひとつだけ○をおつけください。(分家された場合は、その時点をお答えください)

- 1 明治時代よりも前(24.1%)
- 2 明治時代(16.1%)
- 3 大正時代から戦前(14.8%)
- 4 昭和20年代(9.6%)
- 5 佐久間ダム建設時(2.1%)
- 6 昭和30年代(7.0%)
- 7 昭和40年代(6.0%)
- 8 昭和50年代以降(14.5%)  
NADK(6.0%)

問29 いまのお住まいは、次のどれですか。あてはまる番号にひとつだけ○をおつけください。

- 1 土地も建物も所有している(75.6%)
  - 2 土地を借りて、建物は自分のもの(12.7%)
  - 3 土地も建物も借りている(借家、アパート、社宅、官舎等)(8.0%)
  - 4 その他(0.5%)
- NADK(3.1%)

問30 お宅は、この5年間に、新築・改築・リフォームをしたり、今後5年間にする予定はありますか。あてはまる番号にひとつだけ○をおつけください。

- 1 したまたは予定がある(30.3%)
  - 2 していないまたは予定がない(65.0%)
- NADK(4.7%)

問31 お宅は、農地をおもちですか。また耕作をしていますか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。あわせて、耕作放棄や請負に出している農地のあり・なし、あとつぎについても、おしえてください。

- 1 農地を所有し、耕作もしている(36.5%)
- 2 農地を所有していないが、耕作している(5.7%)
- 3 農地を所有しているが、耕作していない(4.7%)
- 4 農地を所有せず、耕作もしていない(35.2%)

SQ1 所有面積(数字を記入)(※単純集計は省略)

SQ2 耕作放棄地(ひとつ○)

- 1 ある(53.3%)
- 2 ない(46.7%)

SQ3 請負に出している農地(ひとつ○)

- 1 ある(4.3%)
- 2 ない(95.7%)

SQ4 あとつぎ(ひとつ○)

- 1 いる(または自分が後継者)(26.6%)
- 2 いない(36.4%)
- 3 まだわからない(37.0%)

SQ5 農地を継いでほしいか(ひとつ○)

- 1 継いでほしい(56.4%)
- 2 継いでほしくない(43.6%)

問32 お宅は、山林をおもちですか。また山仕事をしていますか。あてはまる番号にひとつ○をおつけください。あわせて、あとつぎについても、おしえてください。

- 1 山林を所有し、山仕事もしている(7.5%)
- 2 山林を所有していないが、山仕事している(0.5%)
- 3 山林を所有しているが、山仕事していない(27.2%)
- 4 山林を所有せず、山仕事もしていない(16.8%)

SQ1 所有面積(数字を記入)(※単純集計は省略)

SQ2 あとつぎ(ひとつ○)

- 1 いる(または自分が後継者)(34.7%)
- 2 いない(26.7%)
- 3 まだわからない(38.7%)

SQ3 山林を継いでほしいか(ひとつ○)

- 1 継いでほしい(60.8%)
- 2 継いでほしくない(39.2%)

問33 昨年1年間のお宅の収入合計は、どのくらいですか。あてはまる番号に、ひとつだけ○をおつけください。(ボーナス、年金等を含む税込。農林業の場合は、必要経費を除いた金額)

- 1 200万円未満(24.1%)
- 2 200～399万円(35.2%)
- 3 400～599万円(12.2%)
- 4 600～799万円(8.8%)
- 5 800～999万円(4.9%)
- 6 1000万円以上(2.1%)

NADK(12.7%)

問34 あなたと配偶者の方がおもちの資産(預貯金、株式、不動産などすべて含む)の総額は、時価でどのくらいですか。おおよそでけっこうですので、もっとも近い番号に○をつけてください。(配偶者がいない方は、ご自身のみで)

- 1 なし(16.1%)
- 2 300万円未満(23.8%)
- 3 500万円ぐらい(14.2%)
- 4 1000万円ぐらい(12.7%)

- 5 1500万円ぐらい(9.1%)  
 6 2000万円以上(12.2%)  
 NADK(11.9%)

問35 佐久間町の地域の将来について、あなたのご意見をご自由にお書きください。(※回答は省略)

問36 本調査について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(※回答は省略)

長時間にわたってご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

## 付録2 佐久間町の地域づくりとくらしに関する調査 問36の自由記述(一部)

※自由記述は、有効回答386のうち、記述ありが205(53.1%)にものぼった。本来ならばすべてを紹介したいが、紙幅の制約があるため、ここでは「不安」「心配」という単語が用いられた回答(同様の趣旨の「どうなっていくのか」「案じられる」も含めて57件)に限って掲載する。基本的には、記述のままだが、個人が特定されるおそれがある表現を改めるなど一部修正したところもある。

- ・我が家の周辺を見回したとき、過疎化と高齢化の流れは急激に進行しています。いまや打つ手がなくただ時の流れに任せるとゆう感じです。65歳以下の世帯を数えてみても10%に満たないかと思われれます。この後10年経ったらどうなるか、まさに限界集落そのものではないかと懸念されます。我が家は周囲を山と畑に囲まれた傾斜地に家がぼつんと置かれたかのように建っています。今まさにそこは、山の木々が生長し高く伸びた杉の木に太陽の光は遮られ、いまの冬の時期にはストーブで暖をとる時間も多くなり燃料代も年金生活者にはつらい出費です。また畑は耕作放棄地となり野生化した茶ノ木、草花などが生い繁りそこは野生動物の住みかど化し僅かばかり作った農作物に被害が生じています。と同時に家の周辺にまでこれらのものがおし寄せ周囲を完全に包囲されたような格好です。この先、家自体が草木に追い出され消滅の方向に向かうのではないかと心配されます。

またこの時代我が家には車が入らず生活物資は唯一の動力である一輪車で家まで引き上げているのが現状です。もちろん、すべてがこのように環境で生活しているわけではありませんがこのように我家に似た状況下におかれた家が多数存在することは決して誇張された話ではございません。でも不便さは感じますがこのような境遇の中でも長年暮らしてきた安全で安心の町佐久間が大好きです。本当はこの山、川、空気のすんだ自然豊かな町をいつまでも後世に伝えていきたく思っていますが、今の状況を見たときはたして本当にこの後この地が良いからと呼びかけ叫んでも耳を傾ける若者は多分いないのではないのでしょうか。佐久間町も浜松市になりましたが、我が家と同様太陽の光に恵まれずわずかでもいいから暖かな日ざしを求めたく思います。こうした山間地域の問題に市として取り組みがあるようですのでそこに期待します。こんなこと長々とかいてごめんなさい。

- ・高齢化や過疎化により今後どうなっていくか不安がある。住んでる自治会のことなど特に不安に思う。浜松市として天竜区について感心をもっていたきたい。
- ・浜松市との市町村合併により佐久間町のくらしはどんどん悪くなっている。①山間地は予算が減らされイベント、駅伝等運営が出来なくなる。②若い市役所職員が浜松区、中区、東区等の異動の為、そちらで家を立つため、佐久間へは戻って来ないため、高齢化、少子化がどんどん進む ③小さな自治会が多く、運営が出来なくなる…自治会の合併が必要 ④若い人の働く職場がない…どんどん過疎になる。⑤市政は中山間地をバカに見すてている。⑥高齢化率どんどん進む。⑦子供が少なくなると、親は山の学校では不安で入学させなくなる。→学校なくなる。幼稚園も同じ。
- ・限界集落です。将来とても不安です。
- ・数年後には空家が多くなり限界集落が予想される事が心配
- ・過疎化、少子高齢化がすすみ、このままでは集落がなりたたなくなるのではと不安に思います。この自治区ももう20年もすればなくなってしまひそうです。どうしたら若者が住んでくれるのでしょうか。
- ・現在私が住んで居る部落は1人暮らしの家と75才以上の高齢者が多く若い人はほとんどいませ

ん 5年～10年後にはどんな世の中になるのか心配しています

- ・合併後は町や自分たちの将来について漠然とした不安が明確なものになってしまいました。クラスター方式の合併であったはずが現実には吸収合併であり吸収合併としての話し合いがなされたわけではないので、行政側の一方的な押しつけ感が強く 制令市になってからは、浜松市という大きな波にのみ込まれてしまい、地域の特色、自治会活動、福祉など、自分たちの生活の基本となるものが切り捨てられています。家のまわりに何軒ものコンビニがあり病院があり大手スーパーのある浜松市内の住民と、日々の食料品にさえこと欠く旧町村の住民との格差を理解し認めようとしないう今の浜松市のやり方では、もう佐久間町には住めない。先祖から受け継いだ田畑山林を守ってはいけないという不安で、いっぱいです。
- ・不安要素でお先真っ暗
- ・働く場所、仕事もなく佐久間高校に至っては進学、就職を問わず100%町外へ(都市部)流出し、若者については仕事がない為に都市へ行く、アパート生活にて家賃の支払いに、同じ支払うならと祈祷し、ローンを組む、退職してから佐久間町内に帰ってこないわけである。私は佐久間町の将来は非常に悲観的に思えます。特に心配なのは環境の破壊です。
- ・老々介護をなさっている近所の方が大変多いです。わが家でも義父母の世話をしています。谷あいを救急車が毎日のように走っています。佐久間病院が身近にありますのでとても助かります。5年～10年後はどんな風になっているか不安です。住みよい将来を望んでいます。
- ・20代の方は、ほとんどが仕事の関係で来る人ばかりのような気がするので今後過疎化する一方ではないかと心配です。特に高校生は佐久間地域から出たいという思いが強くあり、この土地から魅力を感じてくれる子どもに育ててほしいと思うことが多々あります。
- ・高齢化が進んでいる中、10年先がどの様になっているか 自治活動が不安
- ・若い人が少ない事が1番心配です。
- ・町に子供や仕事が無いので 老人が多くこれからが心配
- ・高齢化率が進んでいる地域で、私の廻りも老人二

人の家庭が多い所です。子供の仕事場が無く、帰って来てもらうわけにはいきません。でも出来るだけ、健康で暮らして行くことを考えています。病院が近くにあるのがとても幸せです。現在あちらこちらで医師不足ですので心配です。出来る限り現状維持でいられる事を望みます。空き家が多くなる。

- ・今は2人共元気にして居りますが、これから身体の方が心配です。特に車を運転出来なくなる事が一番こまります。佐久間町の福祉バスがなくならない事を祈っております。
- ・若者の減少と高齢者が増えて行く町 将来の身体と生活が不安である
- ・若者が働く場所がなく佐久間町では高齢者ばかりが多くなり将来が心配です。
- ・佐久間町浦川地区は、中学校が佐久間中との統合で、中学生の姿をみる事もなくなりました。近い将来、歴史ある浦川小学校もなくなる心配があります。浜松市との合併で役場に勤める若い家族が配転となり、急激に、若者、子供の数がへり、年寄りばかりが取り残された様になっています。極端な事を言えば、近い内に人口ゼロの状態に限りなく近づくのではと心配です。歴史ある浦川まつりも出来なくなるのでは…と思います。
- ・高齢者が多くなり、子供は居なくなり、学校も少なくなり、食料品店も減り、空屋は増える。この様な状況では将来どうなるのか心配です。
- ・過疎化、高齢化によって将来は不安です。
- ・地域での暮らしがどのようになるか心配
- ・高齢化率が高く、出生率が極端に低いので、将来、この地域に、住む人が無くなってしまわないかと心配しています。地域に若者が安心して働くことのできる場があれば、若者が定住し、地域の活気や活力につながると思います。出生率も高まることでしょう。
- ・私の近所は前は、26軒ほどあった家が、引越したり、亡くなったりして今は11軒だけとなり、住人も80才～60才と老人の1人暮らしが多く、子供の声などめったに聞かれません お店も衣料、雑貨、タバコ販売、食料品販売、酒店と各1軒づつとなってしまうこの先の生活が心配です。今の所・病院・郵便局が近くにあるだけが救いです。
- ・不安 不透明
- ・近所の人は、いい人ばかりですが、子どものいな

い老夫婦で、老老介護やどちらかが欠けた時どうなるのか心配。佐久間町の将来は、私たちのような老人ばかりになると思う。若い人に働く場所がないと皆、外へ出て行ってしまおうと思う。

- ・人口の減少を止めるすべはないと思う 定年まで働ける安定した魅力のある会社がひとつでも多くある事が望ましい 働く場所を求めて町外に出てしまい高齢者の比率が高くなるばかりで将来的に不安である。
- ・息子達(20代)の世代がこれから結婚し、生活していく上で、不安なのが、子供を産み、育てるという環境が非常に不便で難しくっているという事です。ますます過疎化が進んでしまいます。
- ・寂れていく佐久間町 益々の少子化、過疎化に何を期待すればよいのか?不安になります。
- ・佐久間町は高齢化社会となって過疎化となりつつあります。若者は仕事がなく出て行って戻ってきません。子供や孫の代で帰ってくる故郷の将来が案じられます
- ・高齢者が多く、今はみんな元気ですが、これからどうなっていくのかと思います。
- ・高齢者がふえ若い人の働く場所がなく、置き去りにされる不安がある
- ・合併に伴い、若い家族が子供を連れ町に引越し高齢化、過疎化がさらに進んだ。空き家も増え物騒だ。商店、会社等も仕事が減り困っている。これからもっと人口が減っていく中、医療等、不安に思います。
- ・年を過ぎていくと2人で生活していることの不安はありますが、近くに兄弟姉妹が多くおられますのでノンキな面もありますが地域のお年寄りが多くなると助けたい気持と自分達のことと迷うことが多くあります。山間部が大変なのはきっと日本中どこも同じだと納得してます 仕事が又、やってみたいとも思う。色々な事を自らの手で解決するのが良いような悪いような??
- ・山間地に住んでいて山林の景気が悪い年月が永く続いており、悪じゅんかんに見舞われて山間地の住民は行き先が見えず、それが一番不安です。このままでは山間地に住む人は近い将来なくなってしまうおそれがあります。こんなに住みよいところなのに老人にやさしくない行政でこの先、住む人はいなくなるのではなしでしょうか。
- ・林業衰退は外材輸入と建築様式の変化だけでなく

専業林家の利己主義経営を世間は問題にしていけない。政治用語ならず少子高齢化が進み 林業も考えないと経営が不安になる 合併した佐久間の将来は考えても苦勞をしてもトンネルから抜出れるか心配だ

- ・浜松市との合併後山間地から出て行く人は若い人に限らず、とても多く、残った人達と云う言葉が出る程現在は人口も少なくなっています。でも山の中でも生きて行く方法は、何かあると思えます。木、空気、水、人情、良い物が沢山残っています。小さな畑で細々と野菜を作っている人達も、自分だけでも食べ切れないと回りに分けてあげたり収入は無くても頑張っています。こんな良い地域が無くなってしまいそうで毎日不安です。でも私は生きて行きたい、この土地で。
- ・老人だけの家がふえ、若い人、子供が少なくなってしまう行政にたずさわる人も減らされ自治センター職員までも町外に出ていってしまい、この先、佐久間町は、どうなってしまうのか?孫達は、どうなるのか?心配しています
- ・20年後は人口1000人を下まわっていると思います。現在の浜松市の事業推進では、都市中心的で山村から人は市内へうつってしまい、学校、職場はなくなり高齢者と空家が多くなり、農地は荒れほうだいとなるでしょう。中部天竜駅にあったレールパークですが、8月~10月にすごいにぎわいでしたが今後は名古屋市へうつるようですが、佐久間町へのこして活性化につながるようにしてほしいです。良い物は他方へ悪い物は佐久間町へのこすのでは山村は良くなるわけがないと思います。愛知県では三河川合へサークルK、カーマを開店してにぎわいをみせていますが佐久間町では店主が高齢でいつ閉店するかわからず不安です。とるものは(税金)とるのだから山村をみすてないでほしいです。
- ・老後の生活に不安を感じます。(買物、病院など)長く安心して暮らすことができるように行政にお願いしたい。
- ・数年後には人が居なくなる。何時、ここを離れようかと検討中。先行、不安ではあるが、仕様がないう事と考え、次の仕事を恐いながらの生活が続く。地域の人間性にも問題がある。とても閉鎖的で他人を寄せ付けない空気がただよっている。子供の教育にもとても不安がある地域だ。他地域か

ら嫁を連れて来たが受け入れられないのでとても情けないアホな村だと思ふ。

- ・仕事もなく、人が少なくなっているため、将来どのようにになっていくかが不安。
- ・少子高齢で将来不安です。
- ・若者が仕事する工場も無く、佐久間町に住む若者も少なく、これからもどんどん高齢化が進み老老介護をしなくてはならない町で不安な今後を思い淋しい気持ちです。この町をみすてないでほしいと思います。
- ・人口減少で収入減により商売が成り立たなく廃業しました。現在無職です。今後、地域の将来が心配です。
- ・静かで暮らしやすいのですが浜松市(合併)してから仕事が町の方へ移り若い人達が転居したため。このまま……どうなるかと不安が……近くに病院があり、局も、住むには楽だと思いますが。
- ・現在全国的に不景気で佐久間町でも合併後、仕事が減りました。今後、自分達が暮らしていくだけの事はできますが子供達が暮らしていくのに将来不安です
- ・高齢者が増えて、若い人は減っているので先行き不安です。不景気で会社がつぶれるなど、働く場所が近くにありません。少子化で子供達も少なく、学校生活を送るのにかわいそうな時もあります。
- ・道路状況も十分でなく、林業は厳しい環境、人口動態、経済活動、等々から極めて先行き不安な状態と思う。目玉になる観光施設や、恵まれた自然環境もなく、陸の孤島を懸念する。そんな少子高齢化の最たる地域でも人々の心、人情味は本当に今も昔も変わらず、大きなすくいだ。
- ・合併時約束した「一市多制度」が、市長が変わったとたん方向転換され、地域の将来が不安です。都市部と山間部の条件の違いにより、必要な役割(行政の)は異なると思うのですが…。そこらを多くの地域市民があきらめかけているのがこれまた不安です。
- ・地域にこれといった特色もなく、「売り」もなく、若い人が働く職場も少ない。未来はあるのか？少子化もひどい。高齢化もすごい早さで進んでいる。にもかかわらず、古い因習にとらわれたまま、何の対策も見受けられない。
- ・高齢者が多く、町内に仕事が少ない為、人口が減る一方で自分が働ける頃には商店も無くなるの

ではないかと思われ不安でなりません。子供は佐久間に帰って来る事は無いと思います。私達で今の家も終りだと思ひます。残念ですがそれが現実です。

- ・私の家から天竜区、浜松市内、愛知県新城市へ出るには40km以上あり、車で約1時間ちょっとかかります。その間悪い道の工事や時間短縮のためトンネルを掘った場所もありますがそれにしても中々都会へ足を運ぶのもまだ遠いです。昔は佐久間町から現天竜区まで鉄道を通そうと計画があったのですが国鉄赤字に寄り作りかけのまま工事が放置され幻の鉄道佐久間線になり断念してしまいました。もしもこの鉄道が実現されていたら遠州と信州を結べて市民にとっては重要な交通手段になっていたと思います。また三遠南信道路も未来にさきがけて本当に工事を進めて行けるのか不安です。現在の状況で行けば都会に遠い山間地域は本当に置き去りになって行くと思います。国は地方の事を考え金や仕事を回すべきだと思います。出来ればもう少し夢を叶わせて戴けるようなまたは運ばせ戴けるような事がたとえ短い時間であってもとの思ひです。内容にはいろいろ探して見れば出て来るかも知れませんが難しい事だと思います。個人的な事でも必要性が全くないとか関係がないとかではなくて少数などでも目や耳をかたむけて今後のテーマや企画作りなどに役立たせて見る事も大事な心がけだとは思ひます。
- ・主人の年金が少なく月35001では大変です 仕事が出来なくなれば心配です
- ・佐久間町には働く所がなく土木も少し有るだけ工場もなく老人の1人暮らし 2人暮らしの家族がほとんどで年金ぐらしです 何か有った時若い人の力がほしいですがなかなか思うようにいきません。体調が悪くなった時など交通も不便ですし先行不安です
- ・佐久間町そして水窪等日々淋しく成って行く 山村の住人も老人が多く弱者ばかり 若い者は皆浜松市内に出て人口も流れる 5年後10年後どうなるか仕事も少なく不安ばかり前も見えない今日この頃 昔私が嫁に来た時相月も学校が有った 今では佐久間に中学も1校有るだけ…淋しいです 子供の声も聞こえなくて、私達も長女達が市内に住んでいるので同居してない そんな事がどこの家庭も同じ田舎にいるのは老人ばかり今後

どうなるのか 山の中の暮し すさんで行くでしょう

- ・ 少子高齢化で将来の、地域の過疎化を心配しています 北遠地方には自動車部品等の大きな会社もあり、働く場所もあり各保険制度もあって退職した人も、安心した老後を送っていますが近年、会社も各本社へ移動し、無職の若者も多く、大変な社会になって行くと思います 私共の戦中戦後の苦しみよりもっと悪い時代だと思います 働きたいけど働く場所がないと云っております 道路道路と云って道路ばかりよくなっても第一に働く

ところを作ってあげたいと思います 苦しい時はみんながまんが大切です 我が儘は云わない がんばって国内生産が大事な事だと思います 私共は盆、正月が休みだけの時代、今の若者は、土、日、祝、連休もあり、もっと日本の農業をしっかりとやってほしいと思います。若い人が農業している姿がみられませんので残念です